

和歌山県南部にある古座川町の果樹園で、ブルーベリーが収穫の時期を迎え、地元の子どもたちが収穫作業を体験しました。

古座川町三尾川（みとがわ）の農家、坂本米男（よねお）さんは、休耕田を利用して、およそ300本のブルーベリーの木を育てています。

毎年、ブルーベリーが実をつけるこの時期に、地元の子どもたちを収穫体験に招いていて、今日は、近くの小学校や保育所から14人が集まりました。

子どもたちは、用意された消毒液で手をきれいにしたあと、坂本さんに教わりながら、大きく育ったブルーベリーの実を一つ一つ丁寧に摘み取っていました。

そして、紫色の実を口いっぱいにはおぼって、「ブドウのような味がして、甘くておいしい」などと笑顔で話していました。

坂本さんは、「ことしのブルーベリーは、とてもよく育っています。子どもたちが喜んで収穫してくれて、私もうれしいです」と話していました。

坂本さんの果樹園のブルーベリーの収穫は、来月下旬まで続くということです。